

九州大学大学院医学研究院皮膚科  
学・教授の古江増隆さん(61)に話を聞  
きました。

## 肌と関平鉱泉水

薄さ0.02ミリの皮膚の表面(角質層)は肌の乾燥を防いだり、ウイルスや化学物質などが肌へ侵入することを防いだりするなど、重要なバリア機能を果たしています。バリア機能が低下すると、肌荒れや湿疹などの皮膚疾患を発症する場合があります。

温泉水には含有量の違いはありますが、豊富なミネラルが入っています。ミネラルにはマグネシウムやカルシウム、鉄、ナトリウムなどがあり、骨など体の組織を構成したり、体の調子を整えたりしています。角質層の水分維持にも影響を与えています。

関平鉱泉水とほかの水との違いは、マグネシウムとカルシウム(※モル濃度)の比率が1対1の割合で含有されていること。これは温泉療養の先進国であるフランスで、アトピー性皮膚炎などの治療に使われる温泉水と同じ割合です。このことから関平鉱泉水は皮膚のバリア機能を回復する働きがある

と考えられます。

大手化粧品会社の研究でも、関平鉱泉水を使うと皮膚の炎症が抑えられ、回復を促す作用があるという結果が出ています。

具体的には、肌にセロハンテープを張り付けて剥がす作業を10回ほど繰り返し、角質層を壊してバリア障害を生させました。時間がたつとバリア機能は回復しますが、関平鉱泉水を塗った場合、バリア機能の回復にかかる時間が早まりました。

肌荒れなど皮膚の炎症の原因は、生活習慣やストレス、食事、外的要因などさまざまです。炎症の原因をしっかりとケアしながら、関平鉱泉水を治療の補助として入浴したり、塗ったりするといいでしょう。

先人たちは関平鉱泉水を山深い源泉まで汲みに行きました。皮膚にいいと代々言い伝えられてきたのも、その働きを感じていたからではないでしょうか。

※溶液1ℓに含まれる成分の体積



九州大学大学院  
医学研究院  
皮膚科学 教授  
古江増隆さん(61)

牧園町出身。東京大学を卒業。平成9年、九州大学皮膚科教授。九州大学病院副院長、九州大学医学研究院副院長などを兼任。現在、九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター長。医学博士。

### INTERVIEW

関平鉱泉水の利用者

## 肌の回復を すぐに実感

牧園町在住  
牧之瀬 志穂さん(34)  
真翔ちゃん(11か月)



牧園町生まれの私は、子どもの頃からあせもやとびひなど肌に異常があると両親に連れられ、関平温泉によく行っていました。

19歳のときにアキレス腱を断裂し、手術の傷あとは20cmにも及びました。少しでも薄くしたいと毎日関平温泉に通うと、一週間ほどたったころから傷あところが薄くなり始め、関平温泉のすごさを実感しました。

現在、11か月になる息子のお尻拭きには関平鉱泉水を使っています。生まれて1か月たった頃にお尻にあせもを発見しました。市販のお尻拭きシートを使っていましたが変わらなかったのが、試しにコットンに関平鉱泉水を含ませて使ってみると、あせもが数日で消えていくのが分かりました。それ以来、関平鉱泉水が手放せません。